

小学校英語教育推進事業

「小学校教員英語指導力養成講座」について

教育局市町村支援部義務教育指導課

1 はじめに

小学校では平成32年度から新学習指導要領が全面实施される。それに伴い、第3・4学年では「外国語活動」が、第5・6学年では教科としての「外国語」が導入される。平成30・31年度は移行期間となっており、小学校全校で外国語活動の時間として第3・4学年で外国語活動15時間以上、第5・6学年で50時間以上が行われている。

新教材として、文部科学省から第3・4学年向けに「Let's Try!」、第5・6学年向けに「We Can!」が配布された。また、これら新教材のデジタル教材も併せて配布されている。

県教育委員会では、新たな外国語教育の実施に当たり、教員の外国語教育の指導力向上が各小学校の課題と考えている。

2 事業概要

このような課題に対応するため、小学校教員英語指導力養成講座を実施することとした。県内全公立小学校（さいたま市を除く。）から、1名ずつ選出された教員を対象に、外国語教育における指導力向上のための研修を実施した。夏季休業中の8月7日、22日、23日の3日間を研修日とし、受講者は、後日、校内研修で各所属校内の教員に研修内容を伝達する。

3 講座の様子

(I) 1日目（8月7日、埼玉会館）

ア 講演

講座は、文部科学省の直山木綿子教科調査官の講演から始まった。新教材について、指導のポイントやこれまでの教材である「Hi, Friends!」からの変更の意図などを分かりやすく御説明いただいた。また、新学習指導要領についての説明では、小学校の指導内容がどのように中学校と繋がっていくのかという小中連携の重要性や、「読む」「書く」活動の捉え方等について御示唆をいただいた。講演を通して、受講者は「第5・6学年に新設される外国語科とは、中学校の英語科の内容を前倒ししたものでなく、小学校文化に根付いた新しい教科である」と認識を新たにし、本講座の

スタートとして大変意義深い講演となった。



直山教科調査官の講演の様子

イ 講義・演習

続いて、東京家政大学の太田洋教授の講義・演習では、受講者は実際の授業場面を想定しながら、理論と実践を繋げる活動を体験することができた。太田教授には、授業における指導の視点を、受講者が実感できるようにペアワークを織り交ぜながらお話ししていただいた。また、教師が授業で使う英語の身に付け方についても分かりやすく御指導いただいた。絶えず笑い声と、納得の声が聞こえる、大変アクティブな講義・演習となった。

ウ 実践発表

1日目の最後は、「校内研修の進め方」と題し、鴻巣市立鴻巣東小学校の高橋博将教諭に実践発表を行っていただいた。自校で実践している英語力や指導力アップのための校内研修について、具体的な取組内容を豊富に紹介していただいた。各学校で校内研修を企画・運営する際の注意点や研修内容の捉え方など、受講者が実際に自校で校内研修を行っていく上で大変参考になる実践発表となった。



高橋教諭の実践発表の様子

(2) 2・3日目（8月22・23日、県民活動総合センター他）

2日目からは、受講者は14のグループに分かれて、より実践的な演習に取り組んだ。講師は有識者（大学教授等）8名、実践講師（実績のある小学校教諭等）14名、及び外国人講師14名がそれぞれ2日間、各グループの指導に当たった。

講座や演習では、小学校外国語教育の拠り所である学習指導要領の理解、4技能の具体的な指導方法、年間指導計画づくり、新教材の活用の仕方、評価の方法、授業に必要な英語力、校内研修の方法等について理解を深めた。



有識者による講義の様子

また、外国人講師による英語力向上の演習では、ウォーミングアップから簡単なゲーム、英語によるコミュニケーションの基本、授業で活用できる英語表現などについて、実際に英語を使いながら学んだ。

3日目には、本講座の集大成として、授業の一部を切り取ったマイクロティーチング（模擬授業）を行い、講座で学んだ知識や技能を授業に織り込むための実践的な研修を行った。数人のグループごとに授業を組み立て、最後に短い模擬授業を他の受講者を児童に見立てて行い、その内容について意見交換をすることで講座のまとめとした。



マイクロティーチングの様子

4 成果と期待

はじめのうちは表情に不安が感じられた受講者だったが、次第に活気にあふれ、自信がついた様子が見られるようになった。

新しく始まる外国語教育の早期化や、教科化への不安を抱えている教員が、本講座を受講することで、それらの不安を期待へと変えることができたのではないかと感じる。単に新しい情報を得たというだけでなく、多くの講師から外国語教育に対する熱い思いを感じられたことや、他の受講者たちと気持ちや考え、各学校の課題等を共有できたことも成果であった。また、何よりも新学習指導要領全面実施前に何を準備すべきなのかが明確になったことが一番の成果であろう。

講座終了後、受講者は校内研修で受講内容を広く普及することになっている。効果的に校内研修を進め、すべての教員が自信を持ち、笑顔で授業に臨むことで、児童に英語の楽しさをより感じさせられる授業の実践が増えていくことを期待している。

5 まとめ

本事業は来年度も実施される予定である。3日間で英語力や指導力をしっかりと身に付けるということは難しいが、自信を持って授業を行うための「はじめの一步」となった。新学習指導要領の全面実施に向けて、今、何をどのくらい準備すればよいかのゴールが見えてきたのではないかと考える。本研修が有効に機能するためには、各学校での伝達を十分に実施していただくことが重要である。

県教育委員会としても、今後、小学校の教員の外国語の授業における指導力の向上のために、校内研修や授業の訪問を行うとともに優れた教材の発信等を通して支援していきたいと考えている。



草加市立氷川小学校校内研修の様子